婦人衛生雜誌

大正十五年八月十二日發行

第三百八十一號

婦人衛生雜誌

第三百八十一號目次

婦人衛生雜誌第三百八十一號
(大正十五年八月五日發行)

講演

病院小史

シカゴ市ミラー述
野村泰抄

現今では我國何處の小都市にも立派な病院がありますがこれは二三十年此方のことで、この間の歴史は實に錯綜した忙しい沿革を有して居り、これを明治以前の病院史と云ふ様なものに接續させますと木に竹を接ぐ様な變なものになるのであります、それよりも歐羅巴の病院の發達史の方が却て我國現代の病院の前驅として續きがなだらかに見えます。それで今吾々が歐州の病院史を見ましても案外よく想像がついて興味深いものがあるのみならず、この病院の發達と云ふことに就ては、この位婦人の犧牲獻身的の貴い努力が與つて居るかゞ窺はれますので、シカゴ市のミラー氏が述べた病院小史を野村泰氏が抄譯されたものを茲に揭げて「講演」に代ふることゝ致しました(編者)

藝術や科學が今日の隆昌を來すまでにはあらゆる紆餘曲折の道程を辿つたと同様に病院といふものが今日の如き發達の域に達する迄の道程が決して平坦ななだらかなものでなかつたことは、歷史の證明するところである。病院が今日の如く比較的高き發達の階梯に達する迄に踏んで來た時代を三つに大別することが出來る。

一、古代印度時代

二、中世ヨーロッパ時代

三、近代卽ち北米合衆國その他の諸國に於て見る

これ等三時代の間には病院といふものの全く存在しないこともあり又はその性質の甚だ低級なる時代もあつた。第一の時代に關したことは古代の「ヒン

ツー」の法律書のうちの病院に關した詳細なる記載から知ることが出來る。各村々は保健役人の指導の下に塵埃や風や煙又は騒音、惡臭などの入らぬやうに造られた通風のよい堅牢な建物をたてることになつてゐた。その建物には寢室、包厨及手術室が必ずあつてその手術室は明るく清潔に保たれ亦一つの爐が開かれてあつて附添の男が創から惡魔の入らないやうに芳香のするものを炷くことの出來るやうになつてゐた。恐らくこれは何かの胚芽であつたらうと思はれる、術者は機敏に動作し强壯なるを要し且つ手術中は決して話をしたり又は大聲を出したりしてはならない。介添人は彼に必要なる諸種の材料卽ち綿、麻布、絲、繃帶、熔かしたるバタ、油、蜂蜜、氣付藥又は軟膏の如きものを要求に應じて與へる役目を有してゐた。手術用の道具としては百二十五種あつた。手術は常に目出度き星座の下に於て適當なる祈禱の下にのみ行はれた。知覺を麻痺させるための藥も用ひられ患者は手術前數日間は多食することを禁ぜられてゐた。手術が終ると患者は冷水によつて直ちに醒覺せられそして扇にて煽がれた。

醫者は凡て白衣に包まれ杖又は傘を持ち常に一人の奴僕を伴はねばならなかつた。病院の設備器具を擧ぐれば次の如くである。種々の大いさの容器、軟かき「べつと」及枕、白き「シーツ」、硬膏、軟膏、箒、藥草及藥劑。病院には藥草栽培用の畑が必ず設けられてあつた。病室には親切なるそして技術の優れた附添人がゐて患者の入浴を手傳ひ「マッサージ」をなし或は音樂を奏で、聖徒傳を誦し又は患者の面を見つめて以て彼の希望を神聖にする役など一切を取扱つてゐた。

病院の經費は商人の利得額の一「ルピー」(印度貨幣)每に課したる稅金によつて維持してゐた。

尊き佛陀の聖旨の下に凡ての旅人特に病める人は病院に滯泊することとなつてゐたのみならず彼等の家畜も亦相當せる病院に收容せられた。現在唯一ッ殘つてゐるその病院は二十五「エーカー」の廣さを有

する土地、病室及熱帶の太陽の直射を遮つた庭園附きの設備の完備せる家畜用の建物及び一つの養老院とである、支那からの一人の旅人が諸國からくる旅人等に對する「ヒンヅー」人の歡待振りについて書いてあつた。

有名な佛敎徒なるアソカ王は自分の領地內全部に病院を設けよとの布告を出したがその布告文の如きは古くからのボンベイの競爭者なるスラートといふ地の近くにある岩に彫りつけられてあつて今でも讀みとることができる、彼はパトナといふ首都の各四隅の門のところに一つづつ施藥所を設けた、といふのは王が治るべき病人が死んでゆくのを歎かれた結果と傳說に記されてある。

痘瘡に對する種痘は「ヒンダス」に於ては大昔から用ひられてゐたといふことである。綿につけた種痘の材料は祈禱者によつて使用せられ熱が出てくると患者は戸外の蓆の上に臥せさせられた。

エジプトに於ける病院の發達はインドよりも遙に後れてゐる、最初は病人等はエジプトの町の最も繁華なところにおかれて、もし通行人中に同病の經驗ある人があるときは如何にして治りしやを云つて聞せるやうな仕組になつてゐた。バビロニアではかくの如く敎へねばならぬといふ法律さへ出てゐた程である。かかることは今日不必要なことであらうといふ批難も起つてゐた。後に患者等は寺に集まるようになりそこで僧侶は自分等に夢を告げて神のお告げを傳へたものである。

ヘリポリスといふのはマリーとジョセフとが逃走の途中休息した所と言ひ傳られてゐるが、そこには一寺院があつて、そこで月の女神の「アイシス」が彼等の夢に現はれた人々に治病の方法を敎へたと言はれてゐる。後に僧侶等が大きな石造の寺々で「クリニツク」を開いたが當時の壁は彩色を施して薄肉彫の樹皮を用ひてあつた。ある寺では室の戸の上部に「實驗室」なる文字が記されてあつたり他の戸の上には產屋なる文字のあるのも發見されてゐる、プレステ

ツド教授は、ある草から製造された紙に三千六百年前に書かれた最古の醫書を譯したが、それには明快なる演繹的考察の下に症候や藥劑についての正確な記載が示されてある。尙ほ後に至つてはもはや僧侶即醫師にはあらずして醫師自らその專門の術を行つた。その頃には眼科醫や齒科醫も既にあつて金充塡さへ行つたと言はれてゐる。處方は寺内の大廣間の石柱に刻まれてあつて、もし醫師が自己の經驗によつて自由に處方をつくつたり又は變更して、もし不幸にもその患者が死の轉歸をとつたときには醫師自身また死罪を宣せられた。かくの如き保守主義は從つて古代エジプトにおける醫術の進步を阻害すること甚だしく吾人の考ふる如き意味の「ホスピタル」なるものは「パラヲ」王時代のエジプトには一つも存在してゐなかつたらしい。

ここに極めて不思議なる現象は紀元前四世紀の頃文化の惠澤に全く浴し得なかつたアイルランドに既に病院といふものがあつたことである。アイルランドの王女 Macha は「悲みの家」といふ病院をつくりその時代の法律はこの家に限り「借金や犬や馬鹿や及び婦人からの叱責を免るべきである」と要求し、そして「建物の中央の下には一線の水の流があるに相違なく、そして患者は誰でも母を連れて行くことが出來た」といはれてゐる。アイルランドにはローマ人等の如き醫學的知識は缺けていた。

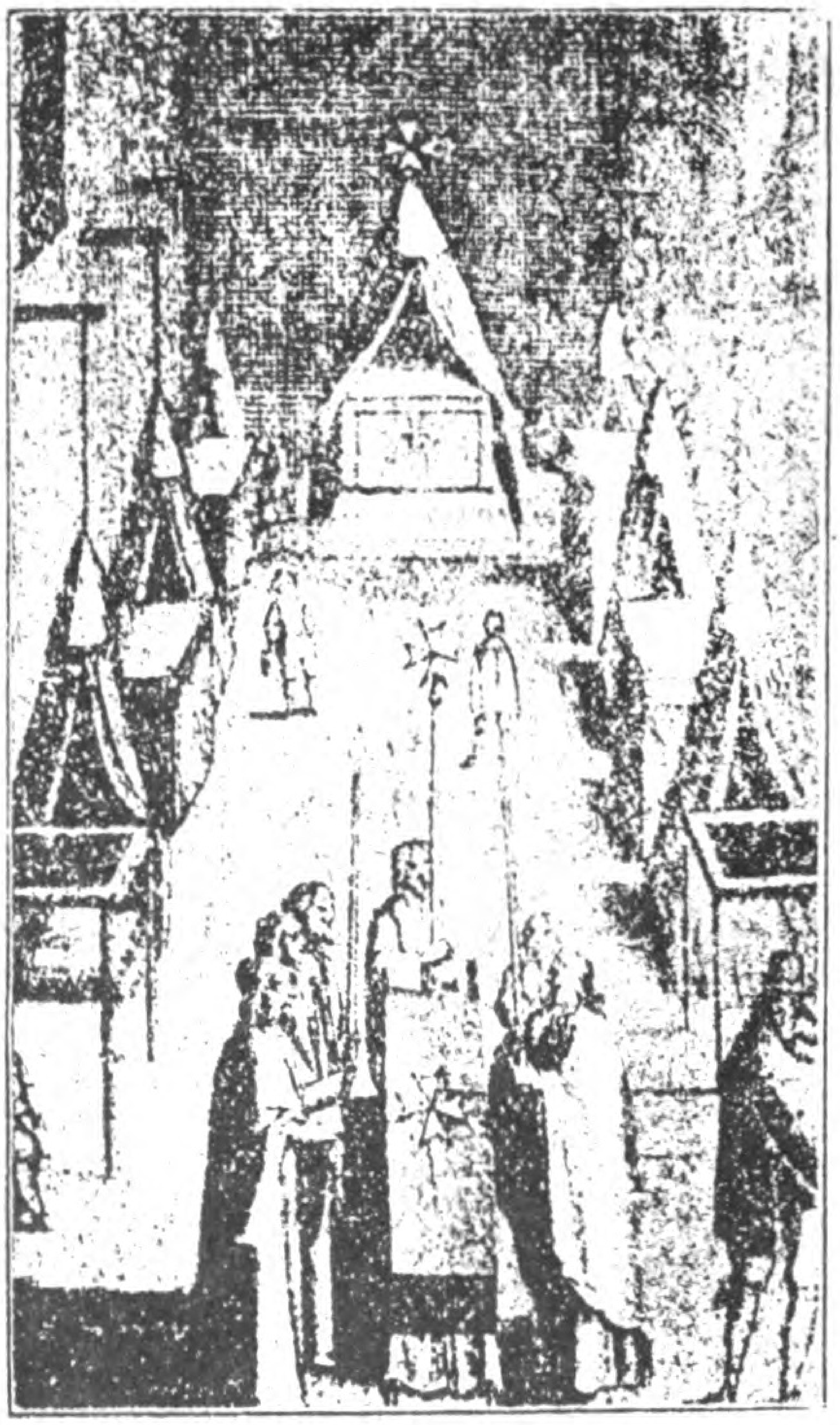
ギリシャ及びローマでもエジプトにおけると同樣に最初のうちは病院といふのは寺院内の一室であつて其所で人々は神靈の託宣に對して幸福なる夢判斷をせねばならなかつた、アポロの息エスクュラピウスの寺は最も有名なものであつた。病人はこの寺に詣でて彼等の力で出來るだけの何等かの捧げ物をなした。その柱には今でも病氣や治療法の說明や呪文など後代の人々のために書かれてあるのが讀まれる

アペレズといふ人は消化不良にかかつてゐたのであるが、その人の書いたものに凝乳と「パン」、萵苣、「オランダ」芹及び「ボイルド、レモン」のみを與へられ

激怒の發作を避けよと敎へられたといつてある。寺には馴らされた蛇が居て巡禮者の與へる菓子などにて養はれ神聖なものとして取扱はれ訪づるる人の創を嘗めてやるように敎へこまれてあつた。神經質の人や精神病は最も手厚い看護をうけ「ハムモック」で

第一圖

「コルタ」に於ける聖「ジョン」の騎士病院大病室



やさしく搖られたり音樂を聞かされたり又は頭を撫でられたりするのみならず、もし出來るならば職業を與へて勵まされたりした。

治療といふことは神聖な藝術と考へられてゐたがまだその時分には醫者の家や又は水飲み所等に數箇の病牀が富裕階級のために設けられてゐた外。眞の病院なるものはなかつた。

ローマに於ける狀態も基督敎の勃興まで　ギリシャのそれと同樣であつた。僧正等は自分等の家へどんな宗敎の人々でもかまはず病人や老衰者を引入れてゐたが公の病院なるものはローマ人による迫害が止むまでは建てられてゐなかつた。紀元三五〇年の頃背敎者なるジュリアンはその手紙に「もしも古い宗敎が基督敎の僧正等の如く慈善病院をつくらない限りその宗敎の復興は不可能である」といつてゐる。數年後ハビオーラといふ婦人がローマに最初の大病院を建てた、彼女は嬌艶な交際上手な女であつて一人の男と結婚したがその男が後にやくざ者になつてしまつたので離縁狀をとり間もなく他の

これも劣らぬやくざ者と再婚した後、ある年の復活祭の集りで、彼女が黑の法服をき髮を長く垂れ涙にぬれた面をして復活祭の日曜にその時分の習慣に從つて衆人の前で懺悔して宥しを乞ふ罪を犯した人々の群の中に立つてゐるのでローマの人々はいたく驚かされてしまつた。そこでハビオーラは公衆の前に再婚の罪――とその頃は考へられてゐた―を悔いその後は看護の事業に身を委ねて私財をもつて病院を建て人の顧りみないやうな創ついた人々を看護した。彼女の死はローマ全市の大なる歎きの的であつた。

　これと相對して其時代の有名な人は聖バシルである、彼は貴族の出で榮耀榮華の裡に人となりアデンに出で醫學を學んだ、彼は癩患者等が人々にうとまれて共同井戸から水を飲むことさへ禁ぜられてゐるのにいくた同情しシーザリヤの城廓―パレスチンに於けるローマ軍隊の神堂―の外側に小さな町をつくり癩患者。小兒、老人、病人及び異國人の各群に對し、夫々獨立した建物をたててやつた。

復舊運動の始め

　この町はバシリアと呼ばれてゐて市から全然獨立してゐたので看護人、醫師、職工、庭園師などを始めとし諸種の建物迄悉く備はつてゐた、工業學校及び工場（吾人の所謂復舊事業のはじめ）及び職業局もあつた、凡ての建物は皆よく建築され仕上げられそして敎會堂を中心として對稱的に位置されてあつた。バシルは市の當局に交涉してバシリアに課せらるる凡ての課税の免除をして貰つた。

　病院發達の第二の階梯は僧院及び伽藍と關聯しての施療院の建設である。これ等のうち多くのものは始め僧及び尼僧、後には旅人及び異國人のために建てられたものであるが漸次膨脹して大きな有名な病院となるに至つた。種々の點に於て僧の屬してゐた階級は後に看護人としての階級となり、そしてその僧院又は伽藍の名を保てゐた。最初は法王權は僧侶によるこの活動を認めずして布告を發して僧侶の醫業、醫學校在籍及び外科術の實施等を禁止した。然

しこの運動は十字軍から聖地へ歸還してくる勇士等の利益のために繼續されてゐた。といふのは兵士等はかかる病院に於て皆治療をうけてゐたからである。

法王インノセント第三世はヨーロッパ各國王——英國のジョン王又はフランスのフィリップ王にさへも——の上に敎會の權力を及ぼさんとする最も嚴格なる敎權保持者であつたが一千二百年の年に「サントー、スピリトー」Santo sptrito なる病院をローマに建てた。そして法王は眞摯なる學究であつた故ヨーロッパに於ける最もよき病院の長を聘して診察のことに當らしめた。「モントペリェ」のGuyが、ある病院からローヌ河口に近き風暖かく波碧き地中海沿岸に來て法王を助けて、「サントー、スピリトー」の創立に盡した。このローヌ河口の沿岸は全ヨーロッパの王族や貴族の健康恢復の目的に遊ぶ保養地である、「サントー、スピリトー」は一九二二年火災のため全く燒失したが、つひ四五年前迄はずつと使用されてゐたのである。

ローマを訪づねる僧正等は皆この病院を參觀し、歸來その町にこれに模したる病院を建つるべく慫慂せられたためその結果一四〇〇年頃迄には五千以上の人口を有する町にはかかる病院を有するに至つた法王は凡てかかる病院に對してその町に入り來るある一種の日用品に對する關稅を收納することを許した、例へば鹽の如きは病院の大なる財源になつてゐた。

「サントー、スピリトー」には棄兒に對して三室、病人に對して一室の大病室を有してゐたが後者の如きは能く一千の病牀を容れ夏期にはこれが悉く病者の占領するところとなつた、この病室の外側には長い廻廊があつて看護人等が閑なときに逍遙するところとなつてゐた。この廻廊を横ぎれば、そこには又、大病室へ收容し難い患者のために病室の設けがあつた、一方の端には藥局があり、その上に自宅に病臥するを好まない富裕者のための私室があつた。近

くには院長及び名譽院長の邸宅及び使用人の住居が在つた。別にまた患者の所有品、衣服、金等を預かつて領收證を交付する一室があつたが、ここでは患者が全治したときはそれを返附し又死亡したときには相續者にそれを還付することになつてゐた。又病院には四輪馬車や舁床などあり、高熱で一時他のもつと空氣のよい場所へ移さねばならぬ患者の運搬用に當てられてゐた。

中世紀の病院は「サントー、スピリトー」を模倣した。看護は Holy Spirit の階級によつて行はれたのが、この數百年來の階級はマリー及びマルザの時代即ち彼等が施療院を創立したといはれる時代にその源の發してゐるといふ人もあるやうである。服裝は空色で、その上に二重の袖のある白十字の刺繡をした黑の外套を著てゐた。彼等の階級に屬する二三の人は今尙イタリアの病院で看護に從事してゐる。「サントー、スピリトー」に倣つて建てられた中世紀の病院は近世に建てられた如何なる建物にも劣らぬ有名な又藝術的美觀を有する記念碑である。聖ルイスの賢明なる妹であつたバーガンディのマーガレットによつて創建された「タンニエール」の病院はその模範的のものである、建物は凡て王女の邸から厨房、貯藏庫、又は僧侶、尼僧等の建物に至る迄悉く高い壁によつて圍まれてゐた。

最も大なる病室は五〇呎に三〇〇呎の長方形で而も中には僅に四〇個の病床を容れるのみであつた。窓は高く各「ベット」間には劃壁を有し、これは彌撒の際には取除けるやうになつてゐたが、このために各患者は賊風に惱されることなく、而も通氣は極めて良好になされてゐた。病室の四周には床から十二呎の高さに「バルコニー」が設けられてあつたので「バルコニー」は亦恢復期患者の日光浴場として有用でもあり又看護人等はこゝから病室内の監督をすることが出來た。天井は板張りにて高く穹窿狀をなし細微な彫刻が施されてあつた。窓は尖形で中には

磨硝子を用ひたのもある。

この頃の病室の工合を見ると患者に白壁ばかりの單調を味はせるよりも何か他に變つたよい氣分を與

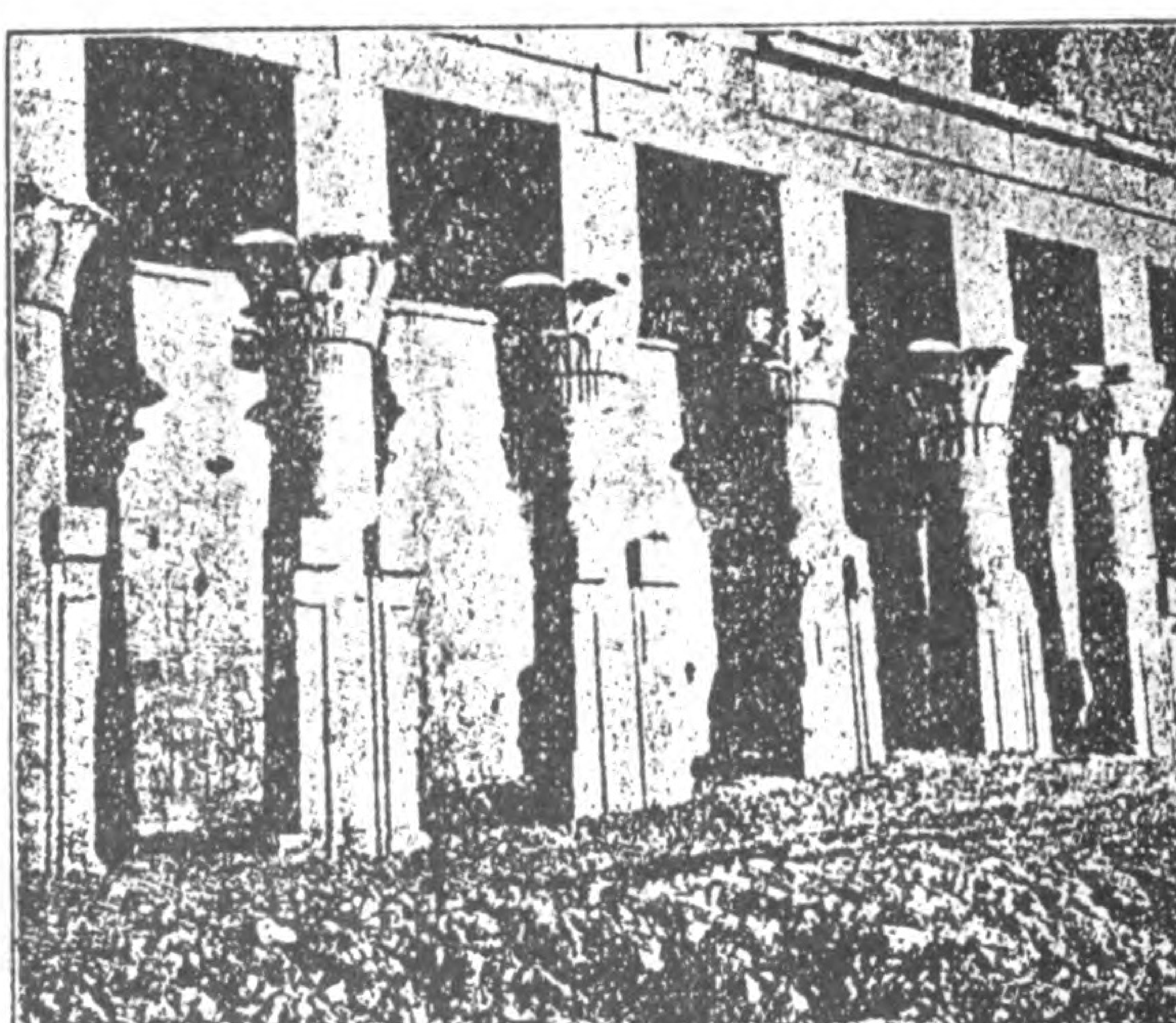
第二圖



「オテル、ヂウ」の姉妹達がセイヌ河にて病院の麻布を洗濯する圖

へんとする注意の閃めきが漸く見えそめて「タンニエール」に見る如く泉水をあしらつた庭園の設備等も生ずるに至つた、然し現今の吾人は彼等のなせる如く病院の近くに墓地を位置せしむるの愚は學ばない。

第三圖



「アイシス」の寺院の産屋の柱廊

中世紀の病院の病室はよく十字形に形造られ、その東翼は毎朝彌撒時のために使はれてゐた、天井は三〇又は四〇呎の高さを有し、通風のために圓天井

としてあつた。床は赤煉瓦又は敷石張りで炭火の火鉢で室を煖めてゐた、室には壁龕、帷帳等を設備し又、紋章や壁畫などもあり、窓には聖書の話等を記載し、以て患者慰安の具に供した。その時代の最も有名な畫家や彫刻家等が自ら進んで又は病氣全治の御禮として彼等の技倆を傾倒した大作なども多數に存してゐる。

始めての患者はその病院を訪問すれば先づ第一に優しい親切な少しも厳つい面をしてゐない門番又は姉妹(同宗の友)の一人に迎へられ、そこで彼自ら懺悔して聖餐を受け、始めて平和な心になつて病氣を堪へ忍ぶ餘裕を得るのである。かくて病室に收容せられ何なりと望むものを與へられるのである。傳へ云ふ、トルコ王サラヂン——エルサレムを征服した人——が患者の望む限りのもの何でも許さるといふことをきき變裝してその病院へ入院した。兄弟の人々が何故食べないのか、何か別に望むものがあるのかと尋ねたとき、彼は首領の乘馬の蹄を是非に所望すると答へた、この事を首領が聞いて早速その馬を殺して蹄を持つてくるやうに命じ、それをこの異國人に與へることにした、ラサヂンこの命令を聞いて直ちに心を改めた旨、兄弟に申し出で、その馬は幸に救はれた。

病室の附添人等は患者を呼ぶに Master 又は Lord ヲ以てし又はフランスにては “le seigneur malade” (病める主よ)を以てした。といふのは聖ベネヂクトの掟に、患者は「我は一異國人にして汝等我を迎へ入れたり」といつたクリスト自身を迎へるやうにすべしと書いてあるためである。

病院内には一般に宿泊の醫師があつて毎日の廻診をなし、別に通勤の醫師は處方を造つてその實行を命じておく。簡單な治療に對しては藥局が附屬してゐる、患者九人に對して附添の兄弟又は姉妹一人といふ割合になつてゐて、これは丁度經費節約のための現時と同樣に、これ以上には出來なかつたのである。傳染病殊に鼠疫流行の時代にはこの割當は一層

多くなり、廊下は瀕死患者で充滿した、も一つ尙ほ當時解決出來なかつたのは伴病者を拒絶し眞の病人のみ收容するといふ問題であつた。凡て患者は全部一日間收容し、もし伴病者と解れば直ちに退去を命ぜられた。もし病氣が重篤なる場合は小なる私室へ收容された。看護や處置は高尙な仕事として考へられ且つ創傷は葡萄酒を以て洗滌されたので消毒の效を全うし、死亡率の如きは後に外科醫が膿は手術の不可避の結果だと思つた頃よりもずつと低かつた。傳染を防ぐために病院は屢〻市の城壁外に設けられ、川の近くか又は川を越えて建築された。セイヌ川チベル河、ライン河、ダニュウブ河等の畔には病院多くプラーグではモルドー河の傍で古きボヘミヤ王の宮殿近くに一つの病院が在つた。

かかる立派な古い病院も「プロテスタント」諸國の僧院制度が漸く衰へて國家がこれを支配せんと試みる頃に至つで次第に衰廢の時期に入つた。有給官吏、財源不足、看護婦不足、その他種々の弊害缺陷相次いで起り急速な衰微の原因をなした。一六五〇乃至一八五〇年がその最惡時代であつた。壁には何等の裝飾なく病院は狹隘にして光線に惠まれず、五十人乃至百人の患者が一病室に押し込められる有樣であつた。フランス革命の一寸前に、ある調査委員が檢査の結果、ある病院では恢復期患者と病者と瀕死者と死者と同一病室に雜居し、狂者の叫びは到る處に聞れるといふ狀態であつた。手術室では手術を待つ人、濟んだ人、手術中のもの雜然として充滿するといふ狀態なるに、一方高貴の人々は金箔美々しき馬車を驅りつつ暖かき毛皮の中に眠るといふ對照を呈した。

革命はこの狀態に多少の改善を結果した。然し眞の改造の機運は先世紀の半以後に於て科學の力漸く廣くその勢を得て現代病院の發達の根柢を造るに及んで始て萌されて來たのである。

現在存してゐる多數の大病院の名稱には種々の奇しき傳說的因緣を物語るものが少くない。病院の名稱選定に當つてその源を有名なる病院の名又は昔

時殊に中世時代の看護に從事する僧の階級名にとるといふことは數百年來の慣習となつてゐた。故にかかる病院名の由來を詮索するときは現代病院に絡まる兎角看過せられ易き種々の「ロマンス」を探り出すことができる。かくの如く昔時の病院名等に範をとれる現代病院の名稱として最も普通なるものは「オテル、ディウ」(Hotel Dieu)である。この名稱は勿論フランスから來たものでフランス移民によつてアメリカに迄も運ばれた。フランスに於ては相當な大きさの町には殆んど定つて〝Hotel Dieu〟を有してゐるが抑もこの名稱は元來は各階級の老年者、貧困者及び病者等のための養育院に附けられたものであつたが、これが中世紀に至つて現代の所謂病院を意味する名稱となつたものである。

第一の〝Hotel Dieu〟は西暦六百六十年パリーの僧正聖ランドリーが自分の邸内にサン、クリストファーの禮拜堂及び尼寺と同時に建てたものと考へられてゐる。聖ランドリーはこの病院維持のため數會堂の寶物の一部を賣却し又尼寺の姉妹等は(彼女等はノートル、ダムの伽藍の祭壇掛布を刺繍するためにその全生涯を捧げてあつたのであるが)その仕事の閑々にこの新しい病院で看護に從事した。

千二百年の頃にこの病院は「パリーの僧正」の陰鬱なる邸内から新しき建物内に移され〝Hotel Dieu〟と呼ばれた。數年後に至りその附近に數戸の家が建てられたがこの小街には街區の名稱がなくして單に各戸はその戸口の上方に標識をつけて區別せるのみなりしため、それ以後この病院の記錄には各戸をあらはすに聖ルイ像の家、フランダースの黄金獅子の家、三匹猿の家、鐵獅子の家或は黄金十字の家としてある。その時代の〝Hotel Dieu〟はノートルダムの僧によつて管理され彼等は病院の經費を社會のあらゆる階級即ち宮廷の高貴の方々、富有なる市民街上の乞食等より得、又地方民、教會の寶物或は宮廷よりの補助下賜金等によつても得てゐた。管理者の僧は常に看護人等を市中に派して病人の發見に努

めしめた。その病人はユダヤ人たり「モハメッド」人たり又は基督敎徒たる事は問ふところでなかつた。もしも基督敎徒であつたときには彼は收容されるや否や心の安靜をうるために直ちに彌撒の曲を聽かされるのが例であつた。彼が病院に滯在中唯一の義務として負はされるところのものは彼の保護者のために祈るといふことであつた。彼等が入院中には王の見舞をうけることも屢〻あつた卽ち女流詩人ナバレのマーガレットやルイ九世その他多數の人士が訪問するのであつた。訪問に最もよき日は聖徒祭の日でこの日には看護人等の手により病室や「ベット」は花環を以て美しく飾られる例になつてゐた。

看護人は皆聖アウグスチンの溫順なる姉妹等にして彼等は「カソリック」敎徒の三つの誓約を遵奉し全く外界との交渉を避けてゐた。毎日の課程はパリーの僧正の制定するところであつた。彼等の食事は黃色の長い卓子を圍んでせられ、院主(尼寺の)の卓子より一段低く据ゑられてゐた。食事中姉妹の一人は大聲に種々の宗敎的事業について讀み上げるのを例としてゐた。

姉妹は各人別々に仕事を分擔してゐた。ある人は果物や「ゼリー」の貯藏に當り、ある人は古き「リンネル」より繃帶をつくり、或は藥劑の調劑をなし或は死亡患者の所有品の賣却をなし、又數人のものは病室に殘り或は六週間交替でセイヌ河で洗濯に從事する組もあつたが彼等は嚴冬尙ほ氷を割つて川に入り以て職責を果すのであつた。彼等の勞働時間は甚だ長く朝四時又は五時から夜晩く迄働かねばならなかつた。といふのは結局豫算の不足のため多數の看護婦をおくことが出來ないためであつた。この狀態が漸次增惡し、つひに看護婦と寺院の僧會との間の軋轢となつたのが十六世紀のことで、その結果病院の管理は最高裁判所の所長が司ることとなつた。又看護婦等があまりに默想に耽りすぎて病室の出入にも低く頭を下げて行く有樣で、そのため患者の要求等を聞き逸することが多いとの不平も起つてゐた。然

しかかる不平があつたにも拘はらず姉妹等は衷心患者の幸福をのみ考へてゐたのは疑なきことで彼女等はかかる不平にも決して氣を落すやうなことはなかつた。病院に火事の起つたときなどには彼女等や附添人等の間に四十人の死傷者が出來たにも拘はらず患者は悉く何等不幸なる椿事なくして他の病室に移され而もかかる混亂の際にも拘はらず投藥時間が僅に二時間遲れたる外一切の事務は遲滯なく行はれたのであつた。かくの如く過勞に疲れたる看護婦等は更に看護に必要なる設備の貧弱さに惱まされねばならなかつた。たとへば十九世紀に至る迄、單獨の「ベッド」は一切用ひられず時には滿員のため普通の「ダブル、ベッド」に六人の患者が三人づつ互に反對の方面に竝んで臥さねばならないこともあつた。高い木製の「ベッド」は患者で充滿しその間に進入するには足許の方から接近する外、方法なく且つ「カーテン」の如きは冬期に使用した重い赤色「サージ」をそのまま用ひ非衞生的なものであつた。

拙劣なる管理法

この裝備の不十分といふ缺點の外に又、病院事務の管理法の拙劣さが缺點であつた。卽ち病院內管理法には全く何等の秩序なく又監督もなく全く各室割據の形であつた。病院の各部は各々それに附屬せる廚房、洗濯所及び材料供給所を有し傳染病患者の如きも普通用病室に收容せらるるは勿論甚だしきは普通の患者と同一「ベット」に配せらるることさへあつた。恐水病、精神病者、瘰癧(結核症)及び外科的患者の如きが凡て同一病室に收容せらるる狀態であつた。傳へらるる所によれば疥癬がこの病院から發してパリー全市中に燎原の火の如くに擴がつたといふのは病院內の不仕末や不秩序によるは勿論、食器の洗滌の不十分なこと及び患者の衣類を消毒もせずに市中に賣り出したこと等がその原因をなしてゐた。

かかる不秩序や非衞生的の管理法が凡てかかる好ましからざる事情を惹起する原動力となつたので此

の罪は看護に從事する忠實なる姉妹等に歸すべきものではない。實に彼女等は千二百年の間引續き倦まず弛まずこの神聖なる職務を〝Hotel Dieu〟の薄暗き病室内で遂行してきたのである。

エルサレムの聖ジョン病院

〝Hotel Dieu〟と相竝んで古き時代に存在しその名が現代病院にそのまま使用せられてゐるもので有名なるはエルサレムの聖ジョン病院である。この病院は千〇九十九年の創立にかかり時恰も十字軍が第一回目の凱旋をしてエルサレムに歸つた頃である。聖ジョン寺院の附近に一つの建物がある、アマルフィの富める商人によつて建てられて、この聖地に病院を創立し永く維持せんと欲してゐた十字軍の團隊に寄附せられた。この一團は後に「聖ジョン敎團の「ホスピタル」講員として知られるやうになつた。(「ホスピタル」講員といふは十字軍士中の傷病者の介抱又は巡禮者の接待のためにこの時代エルサレムに組織せる武士團員である)。この病院の收容能力は二千人にして各國民及び各宗徒を同樣に待遇せるために有名であつた。卽ちモハメッド人の下に奴隷となつてゐた基督敎徒も、戰に傷ついた十字軍士も、遠く故國を離れて貧しき又は熱帶病に襲はれて苦しむヨーロッパ人等も或はモハメット敎徒も其他の異敎徒も。將又、巡禮者、乞食等もその待遇に何の差別も見られなかつた。實に彼等講員は自ら粗惡なる黑「パン」を食して患者等には最も上等なる穀粉よりつくる「パン」を與へたと傳へられてゐる。

聖ジョン病院の歷史

病院の維持のためには、種々の艱苦を忍んで遙々ヨーロッパからこの墳墓の地を指して來る巡禮者や各國々の貴族や或は全ヨーロッパの基督敎國から續續と寄進があつて、つひに各國に地を相して其所に於て聖地以上に慈善事業を行ふことができるやうになつた。つひには退院患者や恢復患者をその故鄕へ送り還すに當りて軍隊の力によつて安全にヨーロッパ大陸を橫切り更に十字軍士の多數に住める病院

の分院の存する地中海沿岸の諸港を經て夫々無事に旅行することのできるやうにするのであつた。

然しこの間に戰は十字軍に不利となり、つひには聖地の最後の根據地たるエーカーの街さへも陷らるるに及び「ホスピタル」講員の團體は海から逃れた七人を除く外悉く殺戮せられた。逃れた七名はマルタ島を與へられ、そこのバレッタに建築美の壯大なる一つの病院を建つるに至つた、この病院の周壁は厚く強く、その中には多くの小なる病室と五百呎の長さを有する一つの大病室を有してゐた、廣大なる壁には數箇の高き窓を有するにすぎず頗る單調なる故、大病室の壁には色調美しき綴織の帷帳をかけてこれを防いだ。

各「ベット」には蚊帳を吊りて蠅の襲來を防ぎ患者は柘榴、梅、卵、獵獸及び種々の家禽の「スープ」等の如き上等の食物を提供せられ食器は凡て銀製のものを用ひた。

二人の騎士が食糧の分配を監督し同時に病院の外部にて施與物や松葉杖、繃帶、敷布、被覆等を分配し、又、棄兒に家を求める等の事を行つてゐた。又、一人の騎士は「リンテル」を、他の一人は「パン」及び葡萄酒を又他の一人は會計を管理し更に又病院勤務員全體に疾病や解剖のことを講義する役を有する騎士もあつた。

彼等の制服は白色の麻布にて八つの幸福を意味する八個の頂點を有する十字形の交叉を前面に縫付けた黒色の職服とエルサレムの白十字をつけた黒色の外衣とであつた、この白十字は救世主の五つの傷を象徴せるものである。

又婦人でこの團體に加入を許されたるものは赤い職服と毛の飾りある黒色の外套を用ひ、これには同様の十字を縫付けてあつた。現今の赤十字の如く彼等は必要に際しては戰場に出でてその任務に服することもあつた。

この病院の看護人(男も女も)の總監督は騎士であつて彼は醫師の回診に追隨し行き又病室の靜謐を保

つために夜も日中も何回となく病室巡視を行ふのであつた。

病院内には各種の疾病に對して各別の隔離室が設けられてあつた。一つは出血患者のために一つは熱性患者のために又、他に精神病者及び瀕死の患者のためにも設けられてあつた。

かくの如く本病院の内部は一定の秩序と管理法とによつて支配され看護も親切と正直とを以て行はれたのであつたが然しつひにこの病院にも墮落のときがきた。ある人々の非難によれば「ホスピタル」講員等はこの慈善事業に對して彼等が不信者に對して起した輕卒なりし戰爭に對する程の熱心さも有しないといふのであつた。その結果はつひに千七百八十六年にジョン、ホワードが全歐洲を旅行して非人道的にして苛酷なる監獄及び病院の視察をしたる際、この病院の内部の狀況も他の病院に比し何等優越の點なしとてこのマルタの古き病院の陰欝と等閑と汚穢との如何に甚だしきかを攻擊せる報告となつてあらはれた。

かく聖ジョンの敎團によつて創立された最も有名なる病院も衰滅に歸したが、この團體は尙ほ病院事業の上にその勢力を有して近代に迄至つたのであるイギリスに於て暫らくの間「ホスピタル」講員は聖クロスの病院を管理してゐたが同時に彼等の競爭對手たる御堂武士團(千百十八年の頃道者を保護して敎敵を禦ぐためにエルサレムに組織せる武士の一團)は王ステフェンよりヨークシャイアの所領の管理權を與へられた。其所では巡禮者を宿泊せしめ毎夕薄暮となると敎團長は角笛を鳴らしておくれて來る巡禮者等が沼地を踏み迷ふことなきやう注意するのであつた。

イギリスの聖ジョン團

今迄に知られてゐる所によればイギリスに於ける聖ジョンなる名稱の病院は千〇八十四年に古きイタリア人なるランメフランクの手によつて建てられたこの人はウィリアム征服王がカアンタベリーの大僧

正とした人である。彼はこの病院を吾人がイタリーに於て見るやうにヨーク市の外廓の内部に接して建設した。かくて聖ジョンなる名稱の病院が續々と建てられたるため、この名は中古時代のイギリスに於て最も普通なる病院名となるに至つた。從つて多くの興味ある插話がこれ等の病院に關して傳へられてゐる。

サンドウィッチの聖ジョン病院ではケントといふ信者が驢馬に乘つて全州を巡歴し以て病院への喜捨を募つたが、この旅行によつて彼はその路用以外に每年十「シルリング」づつを集め得たといふことである他の信者は每日曜に白蠟製の皿を携へて教會へ行き患者等の日曜日のご馳走を用意するための喜捨を集めた。シャーボーンノ聖ジョン病院では每年夏至の夜に聖ジョンを思ひ出すために花環を扉の上に掛け曉に至るまで被施與者に守らしめた。

これ等の病院の大多數は福音著者聖ジョンのために捧げられたものであるが他方又「バプチスト」聖ジョンも最も知られたる病院保護者であつた。ロンドンのサボイ病院には洗禮施行者聖ジョンの禮拜堂があるが、これはその中で祕密結婚式が行はれるといふので有名であつた。千七百五十四年「バブリッス、アドバータイザー」紙がこれについて書いてゐるがそれによれば二百年間こゝで神聖なる法律上の結婚式が行はれたことはその記錄によつて明であるがその費用は僅か一ギニアに過ぎなかつた、又、この禮拜堂への私用の入口は陸上からのが五ケ所、水上からのが二ケ所あつたとのことである。

聖ジョン教團は千八百五十二年にドイツに於て地方病院建設及びそれに要する看護婦養成の目的のために復活された。然し聖ジョン「ホスピタル」團體なる名を思ひ起させる最も印象深きものは聖ジョンといふ名を有する多數の病院に如くものはない。

聖マリー、マグダレーヌ教團

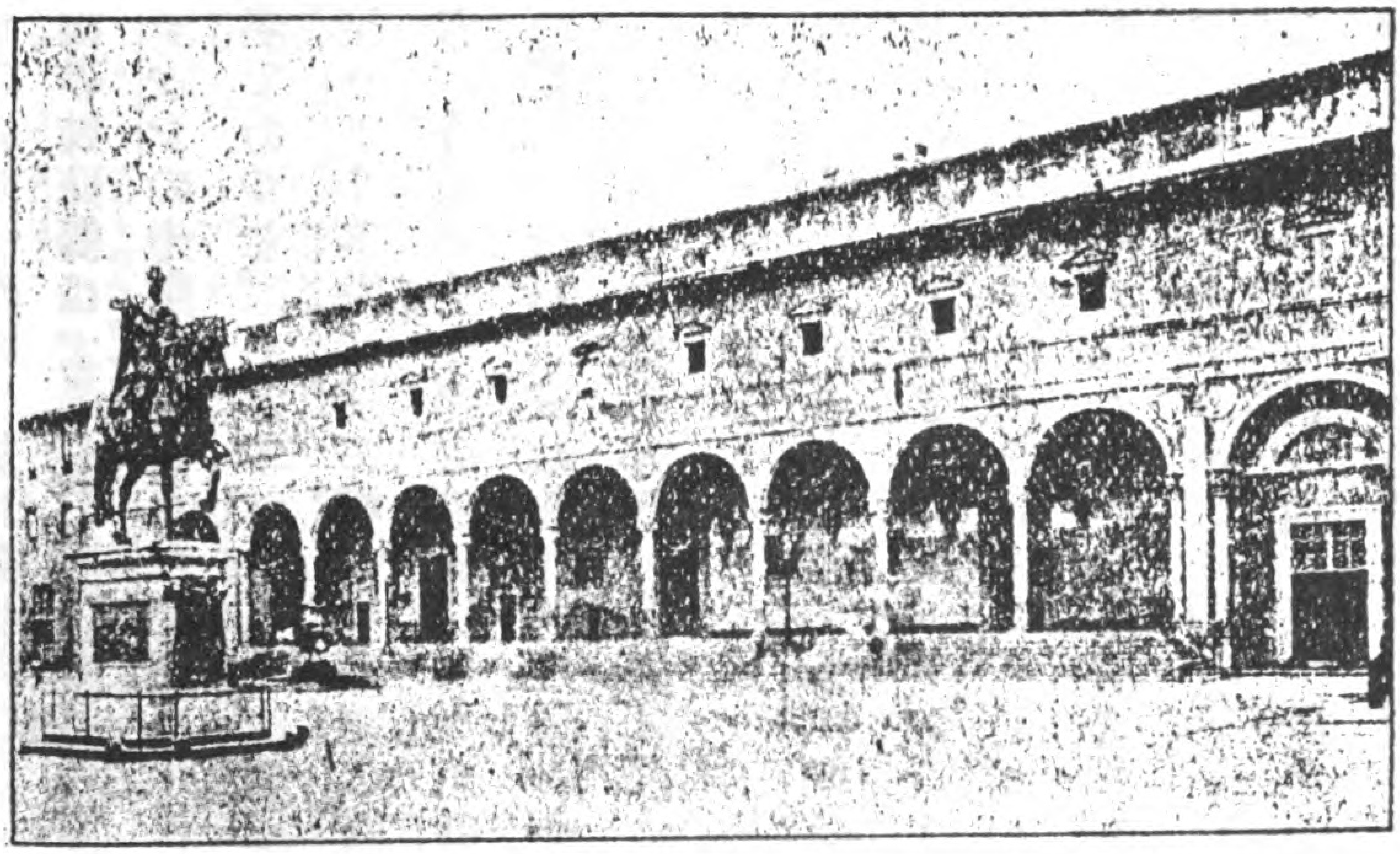
病院の名として屢々用ひられ、始めのうちには聖ジョン教團と密接な關係を有してゐた教團の名は聖

マリーである。 聖地に於ける聖マリー、マグダレーヌ敎團の姉妹等は「ホスピタル」講員の婦人支部として聖ジョンの十字を縫箔した赤服をつけてゐたために有名であつた。 そしてパレスチン全土を通じて各地の聖マリー病院に於て戰傷病者の救助作業に從事した。 今日の赤十字の看護婦の如く彼等は洪水、饑饉、傳染病流行時又は戰爭等に當り野外に於て又病院に於て身命を賭して働くのを以て知られてゐた。

フロレンスにはサンタ・マリア・ノヴ病院といふ麗しき建物があつた。 これはダンテのベアトリチエの父なるポルチナリが彼の下婢の一人モナ・テッサを紀念するために建てたもので彼は病者の看護に一身を捧げたモナ・テッサのためにその仕事をなし易からしめんため一個の家を買ひ與へ以て數名の患者を同時に看護することのできるやうにした。 恐らくこの家はダンテが半ば人に隱れて戀しきベアトリチェを一目だに垣間見んために數時間を長しとせずして立ちつくした場所の近くにあつたものと思はれる。

この家は然しそれでも尙ほ狹すぎてきたので、より大なるよき建物が出來た。 この新しい病院は頗るはたらき易く造られ、又その管理法や看護の狀態が非常に優秀なるのみならず病室の淸潔さも亦著しかつたので時の法王及イギリスの王は各基督敎團の病院をこれに倣はしめんためその病院の管理法の說明書を要求せられた程である。 看護はサンタ・マリア・ノヴの姉妹等によつて行はれたが彼等は近くのその寺院から地下廊下を通つて來のであつた。 彼等の服裝は長い羊毛の服及び「ヴェール」で現在も尙ほフロレンスの看護婦は多くこの服裝である、數世紀間引續き看護の事業をつゞけて今に至つて尙存してゐる有名なフロレンスの病院の一つはサンタ・マリア・デグリ・インノセンチの棄兒院である。 その時代の風習として棄兒は發見者の所有となり彼等は多く奴隷として賣られたものである。 この病院はかかる棄兒を保護するために設けられたのである。 彼等は

ここに收容せられて一般のフロレンス市民の兒童と何の遜色もない養育をうけた。偶々スペインから歸



フロレンス市聖「マアリ、デグリ、インノセンチ」(薄肉浮彫を示す)

つた旅客の話に彼國では牛乳で兒童がよく育てられると聞きサンタ・マリアの姉妹等は牛乳を二三の棄兒に試みてそれがよく育つのを知つた。彼等は七歳になると私人の家庭に入れられて養育された。彼等



傳染病患者廻診時の醫師の服裝

の養親は女兒には嫁入持參物を與へるか又は尼寺に入れ、男兒には商業を敎へ込んだ。この事業を始めた保護者は生絲業者の同業組合であつて、この病院はデラ・ロビアの薄肉の浮彫のために有名である。

シーナの聖マリー敎團

イタリーにあるも一つの有名な聖マリー病院はシーナにある富裕なるサンタ・マリア・デラ・スカラである。この病院は九世紀の頃ソロと呼ばれた貧しき基督教徒によつて創立されたものであるが彼は貧と病とに苦しめられつつ病院を建てるに足るだけの費用の寄進を勸誘した。建築に使用された大理石はこの土地に古くからあつた女神ミチルバ寺院から得たものである。病院の壁はこの病院事業を畫いたところの有名な壁畫で飾られてゐる。サンタ・マリア・デグリ・インノセンチと同樣にここでも棄兒が取扱はれてゐるのであるが、唯前者と異なり、ここでは病院そのものが棄兒のために婚姻費用や持參物の費用を調達してゐたことは壁畫が説明してゐる通りである。尚ほこの外にこの病院では貧民に施與物を與へ、病者を看護し、又異國人の宿泊所となつたりした。

更に一つ有名な聖マリー病院がロンドンにある。その名をオールド聖マリー・オブ・ベトレヘムといふこのベトレヘムなる地名は英語國民により Bedlam といふ軟かな發音をされてゐるが創立されたのは十三世紀の中葉である。元來は一般病院として各種の病者を取扱つてきたが後に精神病者のみを取扱ふことになつた。恰も "Bedlam" が英語で瘋癲病院を意味するに相應しく。

「ベドラム」の永き歴史

この病院の看護事業は有名なる保護者が相次いで助力をしたために中絶せられずに續いてきた。ロンドン市長は僧院制度の解散に際して宗教團體の財産が返還されたとき病院を補助した。又ヘンリー第八世は國民から歎願された時、市にこの病院の管理をなさしめた。又女王エリザベスは病院維持費を得べく自ら説明文をものされて世に訴へた。女王のこの言葉は大いに世の同情をひき、その後病院は益々榮えて千六百七十五年には一萬七千磅の費用で再築せられた。新らしき病院は「チレリース」をそのまま模したものであつたが、ルイ十四世はこれを聞いて自

己の宮殿がつまらぬ病院に模されたのを大いに怒り建築技師をして王が下級の事務處理のために使用された聖チェームス宮殿の模型を造らしめた。

「ベトラム」の聖マリー病院はその時代の他の病院よりも一層愼重に管理せられた。病院の古い記錄を見ると今日から考へて甚だ古きやり方が隨所に見られる。もしも精神病者が逃走すれば監視の任にあつた人は怠慢の罪によりその逃走患者の連れ戻さるるまでに要する費用一切を出さねばならなかつた。各患者は數ケ月看護を受けると必ず監督委員會議に上され、もし治すれば退院させられ、治らないと診斷される時は身内のものに送りかへされた。もし不治とせられた患者が危險性なる時は空室のある時に限り再び病院に收容せしめられた。患者は鋏や鋭い刃物等を持つことを許されず、又茶、葡萄酒、強き「ビール」或は砂糖等も與へられなかつた。現在の病院は千八百十二年に建てられた建物内にあつて有識階級の治しうべき急性精神病者のみを收容することになつてゐる。

叢談

學問した女の果

獨逸 ドクトル ブックスマン述

北司秋白譯

昨今我國に於ては女子の高等教育が盛になつて、女子高等何々學院、女子何々專門學校と云ふやうなものが續々出來、更に何々女子大學と稱するものも設立され、從て所謂昇格運動とか云ふやうな事も頻々と起つて參りました。これは所謂文化とやら云ふ事の骨頂で誠に目出度い現象なさうですが、歐米諸國の眞面目な先覺者等は、既にその弊害を認めて、これは何とか矯正し改革しなければならぬと憂慮し始めて居ります。我國の女子高等教育

ては漸く昨今始まつた事ですが、歐米諸國では既に七八十年前から始めて、今日に至て漸くその眞價が評價されるやうになつたのですから、前車のくつがへる所に刮目してその危險を避けなければなるまいと思ふのであります。依て茲には甚だ簡畧ですが、一例として獨逸の衛生顧問官ドクトルアックスマン氏の所説を御紹介致します(編者)。

大分以前から、醫師の地位を再び高め且つ所謂社會政策的立法の勝手な強要を阻止する唯一の手段として、職業組織の方面からして醫學研究に對して警告を與へられて居るのである。然るに婦人達は、今以て女醫を職業供給の理想的のもの丶如く思ふのは甚だ奇怪な話である。新しがりの時代はとうに過去つて、女醫連も、實力ある同業者達よりも結構なものだとは考へてゐない。女子の高等專門的職業には、國家全體の爲に尙ほ幾多の危險な方面が伏在してゐる。近來婦人研究に對する考察が多少だれ氣味になつて來て居る際、吾人はこれを看過するわけにはゆかぬ、故に學問をした婦人の運命、その末路を追究して見ることを勸める。例へば亞米利加に於て「マウント、ホリヨーク、カレッヂ」、卽ち久しい間女子の學問が行はれ來つた地方に於ける大學研究室の調査に依て既に近頃曝露された如き事實である。

これは、千八百四十二年以來世の中に出た總ての昔の生徒の運命を出來るだけ追究したものであるが、二千八百二十七名(本校出身總數六千名の內)に就て、その晩年の詳細を探知することが出來た。これに依て見ると大體に於て決して餘り好い圖でない結婚せずにしまつた者が頗る多い、特に寧ろ改善せられるだらうと期待された獨身者の率が近年に至て却て增して居る。統計をとつて見ると、近年大學の試驗に合格した婦人の三分の二は未婚でゐたが、其後の狀況は次の如く推移して來た。

一八五〇年乃至五九年には未婚者二五に既婚者七五。一八六〇年乃至六九年には三九と六一。一八七〇年乃至七九年には四一と五九。一八八〇年乃至八

九年には四二と五八の割合で、一八九〇年からは既に未婚者の方が多くなつて來て、一八九〇年乃至九九年には、以前の女生徒一〇〇に就て四二が結婚して五八が獨身で居り、一九〇〇年乃至一九〇九年には、結婚したものゝ數は一〇〇中僅に二四を數ふるに過ぎずして七六と云ふものは獨身で居る。

これに依て見れば、高等教育は、女子の家庭建設をして非常に困難ならしめるものであると云ふことは少しも疑のない所で、特に此場合、合衆國に於ては、歐羅巴に於けるとは異り嫁入の持參金と云ふ事は大した問題でないから、婚姻の物質的困難は婦人にとりては甚しくないと云ふことを忘れてはならない。

尙ほ統計の示す所によれば、全人口に對する不妊婦の平均數は通常一〇乃至一二「プロセント」に過ぎぬのに、是等の學問した女共の婚姻一〇〇中三九は兒無しである。一八九〇年乃至九九年は各家庭二・四の小兒の割であつたが、一九〇〇年乃至〇九年には尙僅かに一・五を數ふるに至つた。

故に右の成績を綜合して見ると、大學教育を受けた十人の女子からは、その土地では僅に六名の小兒を得るに過ぎぬことになる、若し學問した女も他の女に等しいものならば約四十名の小兒を儲け得べき筈である。若し總ての女子が斯樣な高等學校とか大學とか云ふ流儀の教育を受けるとすれば、幾年位その國民が存續し得るものであらうか、然るに政治上もとより男女同權であるから、女子の學問研究は一種の社會的義務で且つ緊要缺くべからざる事であるなどと稱して居るのである。

尙ほ惜いことに先般亡なつた有名な伯林の婦人科醫ブンム氏の調査に係る獨逸の統計で見ると、一〇六三名の女子大學生中僅に六〇%が何等かの業務に就たが、四〇%はその研究或は業務を途中で廢して居る。而して一〇六三名中僅かに三二%が結婚したのみである。學問は結婚には都合の好いものでなく、正に反對な事を示して居るが、女子職業にも餘り爲

にならぬことである。更に婦女子は、醫師として特に問題となる敏活なる決心及び獨斷專行的の冷靜な行爲を必要とする如き職掌には不向である、從て助產などには最も不適當で、その他凡て直接生命の危險ある病態に對しては極めて不適當である。

然れば嘗て女子の專門的硏究奬勵に關する婦人會議の當時、殊に醫學に於ては、男子の剛硬粗野なる感覺に對して、女子の道德的促進の一法であると宣言された頃とは萬事その趣が異つて來た。今日では唯職業の自由選擇上、餘り理想的ならざる努力たるに止まり、而かも全體の爲には大した必要もなき、往々困難辛苦なる少數者の仕事として取殘されて居るに過ぎない。此の如き實情に鑑みて、その勞働は必ずしも一般に値打なきものとはせられなかつた婦人達が、尙ほも大學式無產者を殖そうと努むべきであらうか。これに就ては吾が獨逸婦人等は、その顯著なる母性的特長を以て應ふるに餘りがある。

日光の治療的效能

東海漁士

遍照金剛とは佛徒の口にするところなるが、これは日光の恩澤を讚仰した言辭である。普遍の日の光は治療の偉力ありとは古から普く識れ渡り、野蠻人も文明人も疾病の治療に日の光を應用した。光の效果は全「スペクトクルム」又はその一部を用ふる所謂積極的方法のみならず、「スペクトクルム」を除外せる消極方法の行るゝことも民間治療によつて知ることが出來る、その一例として最も好適例は天然痘の治療法で、患者を暗室に容れ又は赤色光にて日光を蔽へば經過が良好である、天然痘が日光に晒され、又は綠の光、紫の光に遇へば炎衝を招起し化膿し易く治後に瘢痕をとゞめ所謂菊面石面といふことになる。然るに患者を赤い光の入る室に臥かして置けば治癒が早く瘢痕も淺い。猩紅熱、痲疹にも赤いカーテンを懸けた室に病人を收容すると良くなる

とは古くから民間に行れた治療法である。

更に歷史を繙くに、古代文明人が日光を治療藥として用ひたことが埃及、希臘及び羅馬の文明史に殘つて居る。ヒポクラテスは太陽の乾燥力を說き、ヘロドートは日光浴の筋肉神經の興奮作用あるを力說して之を獎勵し、アンチルロースの斷片的に殘れる記錄にも可なり精しく太陽の效果を述てある、之は油を身體に塗り、又はたゞ浴場にて日光に浴しつゝ坐り、或は步き廻り、若しくは橫臥する、臥す者は枕を敷皮に置いて之に包まれ、或は砂上に伏臥す。油を塗らざれば日光は體內に射入して吸收せられ發汗を旺んにし、肥胖を抑止し、筋肉を强くし、脂肪を消耗し、水腫を輕快す、その他呼吸は日の爲に力强くなり且つ頻數を增し、鳩胸などもこの爲に良くなる、頭の疲れ易き者、虛弱の者は日光にて身體を練るに效あり。日光浴をやるには腸管を豫め整へて便通を計り、日射を防ぎて頭に受くる害を除く可しと謂へり。其他油を塗りたる場合も同樣なるが、身體の乾燥が一層早く、油の酸化が起りて色つくことが强い。その他水腫、坐骨神經痛、腎疾患、象皮病、浮腫・下腹部の疾患、膀胱疾病の者、婦人病、白帶下あるものには、何れも日光浴を採るを良とす。敷布は十分大きくし、油を塗り、その上に砂をふりかけ、患者を包み頭には布を纏ひ日射を防ぎ、その裡に長時間休めば身體は內部より溫りたる後日光に晒すと謂へり。

アンチルロスの批評的意見も近世の研究より考察するも決して遜色なき程練熟せり。

羅馬の醫史にてもチエルズース、フリニウス、チチエロが日光の治療效果を說き、日光浴場としては南向の家屋に平き屋根を作るべきを敎へた。

近世に於て日光の醫治的效果の說明をしたものには先づ瑞西のリクリーに指を屈せねばならぬ、氏は日光浴を物質代謝病に規則正しく應用して治療の效果を納めた。又グッルコは喉頭結核に反射鏡を用ひて病竈に日光を照射して治療を遂げた。

ベルンハルトとロリールの二家は科學的に討究して日光の治療效果の根據を礎いた、而して外科的結核に驚く可き卓絶の治療結果を獲、外科的處置よりも遙に優れたことを認めた。而して彼等は高山に於ける日光の「スペクトルム」は低地例へば平原とは、その構成を異にし、短波長の紫外線に富み、從つて高山の日光は結核に效果あるも低地には其效力なしと論じた。

然れども此説も實際の經驗に徴するに謂れなきものでフェルテンは海上にても結核竈の治療に成績を擧げ、その「スペクトルム」も高山と相同じきを證明した。

最近バルデンフイエル、ブルフイウス、シユメルフ等も低地に於ても日光の結核治療成績の驚くべきあるを認め、特に高山に登り多大の費用を使ふ必要なきを論じ、市街に在りても、日光のさし入る場所あらば四季の差別なく日光治療を遂げることゝなつた。

然し日光の照さゞる時あり、光の弱き季ありて普く自然の日光の恩惠に浴し難不憾あり。フインゼンは人工光源によつて此不足を補ふ光線療法の開基者として知られた人である。

アロンスは一八九二年に石英管に空氣を排除して水銀を容れて封じた眞空管に電氣を通ずれば兩極間の水銀蒸氣から弧光が生じその弧光には短波長の紫外線に富有な事實を發見した。

クロンマイエルは此石英管より發する光を治療上に使用する目的として特種の燈型を作つた、所謂「クロンマイエル」石英燈として汎く知られて居る。バックも自然の高山日光と同じ光力ある人工太陽燈を創つた。

日光

光は「エーテル」の電氣磁氣内振動によりて吾人の眼を刺戟し、網膜にある神經原基を興奮せしむるのである。光はゲーテが想ひ居りし様な構成の單調のものでなくニユートンの說いた複雜な波長の集成で

ある、三稜鏡によりて光の「エーテル」波はその方向を轉換し波長の大さに整列して色帶＝赤—橙黄—黄—青—緑—深緑—紫となる。日光は此七色の光が混和したものなれば、或る物體は色帶の或る一種の波長のものを除いて他の波長の光を打ち消すもので、赤とか黄とかなつて一つの色合又はその複色が現る。

尚日光の振動の一層早くては到底吾人の眼球の網膜が刺戟に應じ得られざる爲に、色感を起さないことがある。振動の眼に感ずるには一定の閾限があつてこれは七六〇より三九七の波長のもので、之を認識光(色)と謂ひ、それ以上又はそれ以下の波長にては光感を喚起しない、故に之を不認識色と謂ひ、太陽には三〇〇まで人工光源には一八〇までを含む。

更に光は眼を刺戟興奮するのみならず、色の「エネルギー」を轉換する力があつて赤は熱を放導するを以て溫色と呼び、緑紫には溫熱なき故に寒色と稱す。寫眞乾板に働くのは赤色に非らずして緑紫色であるから、化學的方面から緑色は活動性のものにして赤色は非活動性である。細胞に及す光の生物的作用も紫や緑なるが、精神上には赤色の影響が強く紫色は少い。赤色は表面に浮び出で紫色は沈む傾きあり、畫家は赤を陽色、紫を陰色と謂て居る。紫は炎衝を招起するに、赤色は之を防止する性狀がある。

此兩者の異なれる立場から赤と紫とは相反對の「エネルギー」の性格が有つて緑は之の中間に位す、植物の細胞は緑色の右又は左の波長によりて種々の生物的作用を現し、緑色で整復す、緑は中性のもので眼にも穩な靜な感を與ふのである。

石英燈の光

石英燈の光は太陽の光と多少「スペクトルム」を異にす。石英光は線に配列す、日光は帶状である、石英光は赤色を缺き、黄色を以て始まり、「スペクトルム」の右方一八〇まで延長し居る故に日光よりも短波長が多い。

此短波長の放射線は皮膚や眼を刺戟すると強い爲に炎衝を起す、日光には斯る强力の紫外線なき代りに四〇〇乃至三〇〇〇の波長の赤外線を含有す。赤は抵紫色力を有し日焼け、換言せば紫外線に基く皮膚炎衝を赤色光にて防ぎ又之を治するものである、石英光の皮膚炎は一方には紫外線に富むと他方には赤色光を含有せざる二重の原因で誘發せらるゝのである。

人工太陽燈

此光燈の應用は漸次擴り、色々の型式が出來た、又赤(溫)の作用を補修する目的として電燈を附屬し又は外端の紫外線を除く爲に、綠板を以て濾過する加工的裝置を施したるものがある。

日光か人工光線か

自然の物を巧に模造するも尙及ばざる所がある。造物主が作つた作品には解き得ざる秘密があり精巧がある。今太陽に就て觀るに太陽には外端紫外線を缺き、人工太陽光には之を帶べり、又日光は空氣中に「オゾン」を作り出すに、人工光線にては空氣を汚穢し爲にその室內に止ると頭痛、惡心を催すことありて、空氣を換氣する必要がある。日光なれは野外にて新鮮の空氣を吸ふ便がある。

石英光には赤と紫との均衡を失ふて居る爲に皮膚及び眼に溫和の作用を及さないが、日光には此均衡を得て居る爲に動物、植物の生活力源となつて、それ〳〵細胞に物理的及び生物的の效果を授與して居る。

高山にのみ日光の治療力ありとの假說は最早や顧みられない、日光には赤と紫との混和が醫治の力となり、平地に於ても四季を通じて日光の醫學的效果を獲得することが明となつた。

高山の利益點は雰圍氣に塵埃を含まず、氣流の多い爲め日射を豫防することである、海上でも之れと同樣である、高山なれば雪の反射、海なれば波の反射から全身に光を受るに平地では反射力がない。光に包まるゝには山とか海とかへ行く方が得策である。

石英光の有力なる立場は何れの場所でも、何れの時でも求めらるゝことである。上記の如く日光と人工光との間にはその構成を異にし、日光の未だ迷路とせる分子の作用あるものと、單調なる人工光との治療效果を嚴重に比較論議するは矛盾であり困難であるも、實用上にはさまでの區別はなく略同樣と見做して良いのである。その上吾人の血液は日光又は人工光の波長を轉換する機能あるから、兩者の效果を或る點まで近接せしむ。

今醫治上の效果より順次に記載すると、高山の日光、海上の日光、やゝ低き山の日光、平地の日光、人工光となる。

光浴

日光を以て治療を開始するに當りては全身に汎く光を當てる必要がある。始め一二分よりして十五分乃至三十分間まで持續放射す。皮膚に色素が沈著すれば四十五分又は一時間も持續放射が出來る。然し餘りに色づきて赭色となると、日光浴の效果は却て妨げらるゝが故に六週間持續放射せば一先づ中止し、六乃至八週間休み、その間に皮膚の褪色と靜養とに務むる必要がある。

人工光にても日光と同じく血液に短時間ながらも影響するもので、日光ならば人工光よりも短く十乃至十五分間一過性に放射す、これによりて物質代謝が旺盛となる、恰も水浴と水灌との關係の如く、少くとも一週間に一二回、少くとも光灌することは持續放射よりも有效に作用するものである。

光の副作用

光強き爲に起す副作用は頭痛、嘔吐、惡心で、それは直接に頭部を放射せられた場合に現る症候群である。神經質、心臟病、肺疾患に罹れる人々は十分に醫師の指揮に從ふて治療すべきものである。局所的には皮膚に炎衝を招起す。

一般的作用

吾人の皮膚が灼きつけらるゝ日光に晒るゝと、數時間を經てその局所の皮膚は發赤腫脹し、疼痛を覺

え、所謂日燒けを生ず甚しき時には水泡を作るが、數日後には紅斑は褪め、皮膚は剝離するも、顏又は手の如き平素日光に晒るゝ處には之を現さない。日燒けの症候が經過すればその迹に色素が沈著す。此色素は將來の光の炎衝性刺戟を豫防する基となるもので、著色の顆粒片が上皮の眞層に附著して光の侵入を防ぐ。赤黄は皮膚に色素を形成せざるが綠紫及び殊に紫外線は之を形成する力を持てり。此色は專ら炎衝刺戟を招起するものなるが、その損傷は再び損害を來すを防止する力となるは興味ある現象でフェルーゲルの目的ある因果律に相當するものである。

皮膚病の二三に吾人は紫外線の招炎衝性質を利用して治療に應用す、この場合には紫外線に富める石英燈、人工太陽燈を用ふのである。

光は血液に、或は物質代謝に影響する所が多い、血液に吸收せらると、其血液は光の「エネルギー」を荷擔す。光の透入力は波長の大なる程侵入力が強い、即ち赤に最も強く、紫外線に弱い、此兩者の關係は色々の場合に實驗せらるゝ所で例へば日に手を翳せば赤く映じ、眼を光に向けて閉づるも赤く感ずるは赤の透入力があるからである。皮下にある血管網は光を吸收し、赤色の「エネルギー」を負擔して生活臟器に作用す。光の「エネルギー」を荷負したる血球はその表面の酸素吸入が大くなる、その他酸化作用、更生作用、集成作用も光の力によりて遂げらるもので、細胞の酸素消費量は明處の方が、暗所よりも大量である。ヘルテルは血色素に結合せる酸素は光によりて還元し、更生せる「ヘモクロビン」を補助すと論じた。光は酸素の分子を血色素との弛き結合より離し、又他面には燒燃性榮養素（蛋白質、含水炭素、脂肪）と新合を促す。此際血液に在る酸化酵素の加入が必要であるとはベールンの徒の謂ふ所である。

化學的作用には波長の小なる程その力が強く靑紫殊に紫外線に最も強い、黄綠には少く、赤には此力

が缺けて居る。然れども血液は非活動性の波長の長き振動を短振動に轉換する性質あるが故に赤色のものも、物質代謝に作用する力を現すに到る。

血壓は光を受くると下降す、全身又は半身を光に晒せばその結果を見ることが出來る。尿頻數は光に因つて增加し、呼吸は靜溫となり、安眠することが出來る。

斯の如き血液と代謝との關係から身體に活動を帶び快活の擧動となる、光の殺菌力あることは衛生上非常に吾人に稗益する所多い、これには水道の水の殺菌に紫外線を出す石英燈を使用す、現に米國には此の例がある。又室內消毒として日光を入れるも殺菌力があるからである。

貧血病

此患者は屋外に於て天與の日光に浴するが最も有效である、人工光燈にても相當の成績がある。日光は造血作用を亢進せしむることは、丁度葉綠素の日光の影響を蒙ると同一で、血液及び組織液に酸素保留が著しく增加し、服用せる鐵劑は之と結合して一層有效となる、日光は身體內の酸素消費を多大ならしむる爲め、日光浴に際しては新鮮の空氣を十分に採り入れる必要がある。

佝僂病

近時人工光燈を以て治療すると石灰沈著が多くなり、治療が佳良となるは「レントゲン」に寫眞檢査で之を容易に證明せらるゝことである。

結核

日光療法の結核に對する效績は眼醒しきもので、外科的結核のみならず、肺結核にも奏效す。日光浴によつて熱は下降し、體重は增加し、局部の疼痛は輕快す。日光浴場の設備は病院に附設すべき必然の條件に今日ではなつて居る。

新たに病院を建築せんとする人は專門家の意見を參酌して、近代的の治療法を講ずべきである。

禿頭病

禿頭病に人工光線を施すことは汎く人の知る所で

あるが、早期のもの程效積早く現るが慢性のものには長時間放射を要す。その他熱性病の後の毛髪脱落症に放射すれば良效を得。

創傷

創傷の肉芽の活力を旺盛ならしむる爲め光線を放射すると良效がある、之によつて起膿菌を殺滅し、血行を旺盛にして治療期を速かならしむ。

物質代謝

日光浴によりて燃燒機能を旺ならしむ卽ち酸素の消費、炭酸の排出が旺盛となる從て此の疾患の治療の補助法となる。

日光浴の方法

高山及び海面の日光は紫外線に富み、平地には之に乏しい、空氣中の塵埃に妨げらるゝからである。人工光には短波長に富むから數分間で眼を刺戟し又は皮膚炎を招起す。されば日光浴を施すにも此周圍の事情に應ずる必要がある。高山にてはその天候に馴れた後に日光浴を始む、之れにはまづ足を數分間、その翌日には下腿を、第三日には下腹部を、次に胸を放射す、頭部は傘を以て日光の射さゞる樣に注意す。かくして色付き來るも別段に皮膚炎を起さない、皮膚の色つきし時には數時間日に晒さるゝも危險なし。而して色付くことは結核患者には治癒した證據であると謂ふ。

平地にても同樣なるが、高山程は日光の危險な皮膚炎を起さない、日光浴に先ちて室内又は野外にて外氣に觸れることは西洋人等には必要である。日光の强き間に日光浴をやり、十五分から三十分間まで、それより漸次三十分、四十五分、一時間と引延す、四季を通じて行ふも冬期には室を十分に温めおく必要がある。

紫外線放射には黑き眼鏡を掛ける必要がある。

紫外燈を一米の距離にて一週間二三回反復放射す。

皮膚の色素沈着は光濾過裝置とも云ふべきもので、危險なる紫外線に對して保護裝置を爲すものな

れば、人工的にも色硝子例へば青色の透明硝子を用ふれば三〇〇のM波までは通過するから、危険の光線は除外せらる、從つて長時間の光浴を行ひ得、又皮膚の色つくことも少い、日光にも此濾過裝置を用ふ。局部の日光浴も同樣で創傷、潰瘍など一乃至三時間日光に晒すのである。(完)

育兒

乳兒の育てかた

內務省衛生局

內務省衛生局の編纂に係る「乳兒の育てかた」と題する一篇が去四月七日發行の官報第四〇八三號に公表せられました。それがこれであります。

「小供は國の寶」であつて、丈夫な子供は他日健全な國民となるのだから、子供を丈夫に育てれば家は榮え國は盛になる。それには、

▲……親の健康が第一　生れつき丈夫な赤兒は健康な親から生れる。それだからよい母乳も赤兒の十分な世話も、健康な母親にだけ望むことができる。

▲……お七夜までの赤兒　生れて七乃至八時間の後、赤兒が眠りから覺めたらすぐ母乳をつける。産後三――四日は初乳といつて黃色い乳が出るが飮ませる方がよい。ゆゑにマクリを用ゐる必要はない。

生後お七夜までは、赤兒にはいろ〳〵のことが起る。それは、

――皮膚が黃色くなる――生れて二――三日目頃から、皮膚の色が黃色くなる、それは四――五日で消えるが、時には、二週間以上もつづくことがあるが心配するのにはおよばない。

――臍の緒がとれる――だん〳〵干からびて、七日目頃迄にとれてしまつて、その痕は二週間位で治るものである。

―乳房の腫れ――時によると、生後三乃至四日目に赤兒の乳房がはれることがあるが、二週間位で減くものである。また

―皮がむける――生後三――四日頃から、皮膚はヌカまたはウロコのやうにむけ、五――六日で止むが、そのまゝにしておいてよろしい。

―胎糞――生後二――三日間は青黒い大便をする、それは胎糞といつてゐるが、乳を飲むようになると黄色になる。

▲…乳とその飲ませ方　健康な母の乳が何より良いのであるから、母乳の基となる母の食物は、滋養の多いもの(魚肉・獸肉・牛乳・脂肪のある食物・新鮮な野菜・果物等)をとり、まめに立働いてよく運動し、食物が充分消化されて、乳のよい成分となるように心がけることが緊要である。

―飲ませ方――初め一箇月位は、二――三時間置き(一日七――八回)に飲ませ、育つにつれて度數を減じ三四箇月頃からは、四時間置き位にして、一晝夜五――六回にして、夜はなるたけ飲ませないようにし、飲ませる時間は毎回十五分から二十分位でよい。飲ませる前には必ず乳房をきれいに拭くこと。

―乳ばなれ――七八箇月頃から、一日に二――三回は、重湯・葛湯・「ソップ」・牛乳・野菜汁・果物汁などを少しづゝあたへ、誕生近くには、軟かい粥・麩・鷄卵(かきたま汁・玉子豆腐)・豆腐・はうれん草・馬鈴薯等の裏漉しまたはパン・ビスケット・カルヤキ類をあたへ、誕生過ぎには、お粥・魚肉・野菜・果實の裏漉し等消化し易いものをお菜としてあたえてよろしい。

―牛乳・コンデンスミルク・コナミルク――母乳の不足のときまたは病氣などで飲ませられない時は、新鮮の良い牛乳を飲ませ、それが得られない時は、ミルク・コナミルクを飲ませる。その飲せ方は、赤兒の發育の工合、四季の關係などで一樣には行かないから、醫師や育兒相談所に相談するのが良

い。

牛乳の薄め方や分量は大略次の表による。

	授乳の度數	牛乳と水の割合 牛乳	水	一回量	一日全量	砂糖量
生後一日	〇—二	一	二	五グラム	〇—一〇グラム	一回極少量
二日	三—五	一	二	一〇	三〇—五〇	同
三日	七	一	二	一五	一〇五	同
四日	七	一	二	二〇	一四〇	同
五日	七	一	二	三〇	二一〇	同
六日	七	一	二	四〇	二八〇	二・〇グラム
七日	七	一	二	五〇	三五〇	二・五
二週	七	一	二	六〇—八〇	四二〇—五六〇	三・〇—四・〇
一箇月	六	一	二	一〇〇—一二〇	六〇〇—七二〇	五・〇—六・〇
二—三箇月	六	一	一	一二〇—一五〇	七二〇—九〇〇	六・〇—七・五
四—六箇月	五	二	一	一六〇—一八〇	八〇〇—九〇〇	八・〇—九・〇
七—八箇月	五	全乳		一八〇—二〇〇	九〇〇—一、〇〇〇	九・〇—一〇・〇

備考　普通四角な角砂糖は、一個およそ七グラム、牛乳一八〇グラムは約一合。

▲…入浴　できるならば毎日入れるとよい。耳に湯を入れないようにして、頸のまはり・腋の下・股の間など殊によく洗ひ、丁寧に拭いて「アエンカデンプン」などをつけて、たゞれをふせぎ、咳をしたり熱があつたら入浴を見合せる。

▲…衣服　輕い清潔なものを選びじゆばんやおしめは、まめに取りかへ、著せ過ぎないようにし、胸や腹を強くしめないようにして、手足の運動が自由にできるようにさせる。

▲…室　子供は日に當る明るい室におくことが大切で、暖い日には室を開け放ち新鮮な空氣や日光にあてるのがよい。衣服や寢具を絶えず日にほす

ことを怠つてはいけない。

▲…外　出　生後三四箇月になつたら、寒くない時分には戸外に連れ出し、新鮮な外氣を吸はせ日光にあてることは、身體のためによいことである。春秋のおだやかな日や夏の朝夕などは、もつと幼い赤兒でも外へ出してさしつかへない。

▲…赤兒に　病氣はすぐうつる　親・兄弟・子守などに病氣があると、赤兒にはすぐうつる殊に流行感冒や氣管や肺の病は一番危險である。咳をする人は赤兒の側によらないようにすること。

赤兒の病氣はすぐ重くなるから、決して油斷をしてはならない。

吐いたり、下痢したり、または咳をしたり、發熱したならば、醫師にすぐ相談しないと手おくれになることが多い。殊に夏、牛乳やミルクなどで育てる乳兒は一層注意をしなければならない。

遊戲選擇の方針

竹内燕兵

私どもが平常から遺憾に思つてる事は、中流以上の我邦の家庭では、餘り子供を可愛がり過るといふことで、而かもよく子供といふものを了解しないで唯無闇に可愛がる結果は、子供の發達を妨げたり、子供を妙な性質にしてしまつたり、子供を苦しめたりする事となる。わが子乃至わが孫の賞められたいばかりに、僅か三四歳の子供に百人一首の歌を皆暗誦させて見たり、いろは四十八字を悉く書かせたりして、神童だとか、天才だとかいひ囃されて、親は得意然とする。實に子供こそ可哀想な話で、全く親の虚榮心の犠牲となつて、却て後年の發達を妨げられるのである。西洋のある大家が言ひました『人間は遊戲するために子供といふ時期があるのである』と。子供の時期は神童と云はれるよりも、よく遊ぶ子供と云はれる方がよい。

面白い事

子供の時代の遊戲は、後年大人となつてからの事業の要素となるものである。子供の時期に「へへののもへじ」を書く手は、やがて大畫筆を揮ふ手であり、「鳩ぽつぽ」を謠ふ聲は、やがて大音樂家となるの聲である。遊戲といふものは、決して時間を費すためにやる無駄事でもなければ、一擧手一投足少しも無意味ではないのである。但し遊戲といへば、必しも四五歳以上の子供がやる如く走り廻るのみでなく、又必しも玩具を要するものではない。乳兒でも遊戲をいたします。乳兒を放置して仕たい放だいにしますと、勝手な事をいたします。これが即ち乳兒の遊戲です。例へば始めの頃は、乳兒は自分の指を目の近くへ持つて來たり、又離したり、又自分の口の中へ突込んだり、手を擴げたり、拳固を拵へたりするではありませんか。生後第三箇月から四箇月位では、身體の近處に在る物、即ちボタンとか衣服の色の附いてる紐とかを掴んだり放したり引張つたり、又口の中へ入れたり、引裂いたり、丸めたりするのがそれであります。それから段々年をとるに從つて遊戲も變つて來るものでありますが、遊戲の二大要素といふのは、自由と面白味との二つである。如何なる遊戲でも強ひてやらしたのでは遊戲にならない、全く子供の仕たい放題でなければならぬ。又其事を子供が面白いと思ふのでなければならぬ。それでなければ遊戲ではない、仕事といふもので、仕事は必ず苦痛を伴ふものであるから、子供にさほど必要ではない。

戸外遊戲

遊戲には道具の要る事がある。これが玩具であるが、玩具の事は別に述べることゝして、特に私共のお勸めしたいのは、遊戲は成るべく戸外ですることゝしたいのである。しかも乳兒の時代から、成るべく戸外へ出す癖をつけて、遊戲も此時代から、出來る限り外でさす方がよろしい。勿論雨天とか、ひどく寒い時、暑い時、大風の時などは室內がよろし

い。然らば如何なる種類の遊戯がよろしいかといふに、其一つ一つを述べますと切りがありませんから、極く大體を申します。

先づ凡そ三歳前後は、遊戯の方からいへば感覺時期と申します時期で、つまり口で味ふ感覺、皮膚で觸れる感覺、それから視たり聽いたりする感覺の遊戯が主でありますから、咬んだり嘗たりする遊び、「おしやぶり」を弄び、物を摑み又は握る遊び、太鼓を聽き、風車を眺め、人形を飾り、花を弄ぶ等の遊びが、子供の最も喜ぶところで、又それが實際最も子供に適して居るのであります。

競爭遊戯

それからだん／＼生長して、幼稚園時代から小學校時代にかけては、一人遊びよりも友人と連れ立つて遊ぶのを好む時期で、所謂競爭遊戯の時期であるから、鬼遊、隱坊、戰爭ごつこ、寶取り、旗奪ひ、紙鳶揚げ、羽子つきなどを最も好みます。默つて獨りで見たり聞いたりして居るのは、此時代には、どちらかといへば面白くないのであります。

十歳以後となりますと、動物を愛する念が增して來て、馬や犬を愛し出し、又洞穴を掘る遊び、山を築く遊び等、それから園藝、植物の採集、遠足などを好む樣になり、十七歳近所になると、「ベースボール」、「フートボール」などの組織的遊戯、擊劍、柔道などの武技、「ボートレース」など強烈な運動遊戯を好む樣になる。此時分には、自己の觀念がだん／＼強くなつて、意志は強くなり、名譽心、愛情の發動が始まり、團體的の精神が盛となつて來るからである。

子供を育てようといふ者は、常にかういふ事を心懸け、子供は此年齡でかゝる遊戯を欲して居る時期であるといふ事を察し、それに適した遊戯をさせる樣にするのが、子供の身心の發育上どれだけ有益であるか知れない。一見無意味で、どうでも善さそうに見える遊戯は、實は後年の活動上大切な要素を成すものである事を、くれ／＼も心得て欲しいもの

であります。



西洋人の日本浴評

去る六月十九日發行の獨逸雜誌「ウムシヤウ」にドクトル ヘチンゲルと云ふ先生が盛に日本の浴法を賞讃し奬勵して居ります。外國人の觀察批評は、譽めるにしても惡口するにしても往々突飛な事を申しますが、兎に角他人の觀察批評に依て我が振りを省みる必要がある、故にこれは一種の鏡であり、自分の習慣風俗を客觀し得る活動寫眞の樣なものであります、殊にそれが非常に立派に映つて居る場合には、少し誤つて立派過ぎても決して不快には感じません、依て茲には略ぼ原文のまゝを飜譯して御紹介致します。但し甚だ立派ならざる婦人の入浴姿の寫眞が插入してありますが、これは遠慮致して措きます。（莊司）

前世紀の後三分の一期に於て日本が歐洲の文物を採用し始めて以來、その反動として西歐の文化は著しく東洋文化の影響を受け、前世紀には日本の體育法も亦歐洲に傳來さるゝに至つた。併し日本に在ては何れの國民階級にも普通で、これが爲に日本人は兎も角も世界一身體の清潔な國民と稱せられる所のその清潔法の需要の如きも甚だ緩慢に而かも專ら唯だ上流の人々の間にのみ漸く起つて來た有樣である。

日本人は夏でも冬でも少くとも毎日一回は溫浴する。大きな公衆浴場に於て、家では個人浴槽に於てするが、その原始的の形は圓い木製の桶で、その水は側竈で沸される。日本人は浴中に橫臥することはない、必ずその中に蹲居むでゐるのである。而して三分乃至五分間位で入浴を中絕し、浴槽の外で灌注

したり洗滌したりして二三回この法を反復する。日本人は攝氏四十二度乃至四十五度の水溫で浴し、決してこれ以下の溫度の湯には這入らない、而して冷水で洗面して浴を終るのである。入浴者は、屋外の入浴に於ては、冬季でも浴後直ぐ丸裸で雪の降る中を家まで辿り著くが、それで以て風を引くなどと云ふことはない。噴火山地方に在る食鹽泉、硫黄泉等幾多の溫泉場に於ては毎日五回位入浴するが、攝氏五十五度程の湯の中に飛込むと云ふすばらしい決斷は一人の先達者に依て容易にせられる。此等の湯治法の效驗は種々の病氣、殊に僂麻質斯性疾患に良效があると稱せられ、ある溫泉場に就て次の樣な事が唱へられて居る（日本の原語では何と申すのか存じませんから、獨逸語に譯したのを復た日本語に譯し戻しますと）“Es gibt nur eine Krankheit, die ein Arzt und selbst die Bäder von Kusatsu nicht heilen können, und das ist die Liebe” お醫者樣でも草津の湯でも治らぬ病が唯一つ御座る、それよそれこそ戀病。

歐羅巴人は迚もこの浴法には堪へないとか、衰弱せしめ或は感冒に傾かしめる作用があるなどと云ふ事は、日本で熱浴を好んで習得し、歐羅巴に歸つても最早これを棄て難くなつた多數の歐羅巴人に依て反證されて居る。我が獨逸の同國人で、永らく東京大學の內科學敎授をして居つたベルツ氏は、既に三十年前に日本浴法の爲に獨逸醫學會議の席上で大氣焰を揚げたものである。同氏は、特にこの短時間熱浴法の驚くべき淸爽的效力に就て述べ、殊に夏季に於ける努力、登山及び遊技練習後の熱浴の效力を指示したが、ベルツ氏のこの推奬は、今日に至るも尙ほ餘り廣く歐羅巴に普及されない。その理由は恐らくこの浴法の最も大切な條件が追試の際に遵奉されぬからの事であらうと思はれる。卽ち二回乃至三回も中絕して短時間浴すると云ふこと、それから浴中眞直な姿勢をとると云ふやうな事を守らぬからである。

ベルツ氏の報告に基いて自分が行つた實驗は、右の處方を遵守することは、熱浴中に於ける生理學的狀態から、その緊要なことを新たに示した。即ち入浴者の皮膚及びその内を經過して居る血管は、頭部及び項部の最初の灌漑及び急に熱湯中に沈入するに方つて、先づ此等の血管が迅速なる收縮を以て反應し、皮膚は蒼白になり、所謂鳥肌を呈する。この收縮には直ちに皮膚血管の擴張が續き、皮膚は入浴中に段々激しく潮紅して來る。浴水の溫度は、約攝氏の三六度と云ふ固有の體溫よりは遙に高いので、身體は最早熱を放出することが出來ず、その結果入浴の經過中に體溫が三八度或はそれ以上に高まる。この現象は、これと同時に段々脈搏が速くなつて來て一分間百二十或はそれ以上になるから、これを以て入浴時間の限度としなければならぬ。浴中で横臥位をとつて居ると漸次腦血管の充盈を來し、これが爲に往々不快なる眩暈を呈する、併し蹲居か坐位をとつて居ればそんな氣遣はないのである。體溫昇騰、脈搏疾速及び皮膚潮紅は、浴後半時間乃至一時間で消散するが、浴後全身の表面に現はれた汗は尚ほ暫時止まない。この最初の強い皮膚發赤は、皮膚血管の一過性完全麻痺と同じ意味合のものである。それで浴後暫時間は、場合に依ては皮膚を侵す所の冷却作用もこれに透徹することはない。それで既に經驗に依て證明された如く、冬の寒氣に身體を曝しても、杞憂さるゝ浴後の感冒と云ふ樣な事のないことが解かる。私自身の經驗でも、攝氏四十五度の浴後に裸體で外屋に出て見たが攝氏二度の氣溫が心持好く感ぜられた。但し四十二度以下の浴では、皮膚血管が完全な麻痺狀態に達せず、尚は幾分反應するので、高浴溫に就て杞憂さるゝ感冒の危險もあるわけである。

世間では、熱浴をすると身體がだらけて疲勞すると云ふ樣な説を唱へて居るが、これも經驗に依て反駁される。全く反對で熱浴の後には非常に爽快になり、それが數時間も持續するが、多くは明かに自覺

される所の高揚的氣分を以て始まるものである。詩人ゲーテは、冷浴の經驗に就て『下司の淫蕩的惰氣から再び一種新鮮な力に滿ちた生氣に緊縮する』と云ふたが、熱浴は冷浴よりも一層その作用の顯著なるものがある。誰でも一度この熱浴に依て身體的乃至精神的適應の經驗をした人は、最早これを誤想し得まいと思ふ。こゝを以てこの日本浴法は、淸爽復活力法として殊に特種の遊技を行つた後には、吾吾に於ても必ず效驗あるべき事がわからうと思ふ。但し血管系統が健全で特に心臟の健康であると云ふことは、これは遊技に於けると同樣、浴法に於ても前提條件である。日本の浴場の三助どんは、療病鑛泉に入浴することを許す前に、ちやんと脈を診ると云ふことである（これは少々三助君の鼻がむづ痒さうだ）。

この日本浴法の採用は單に日常生活に於てのみならず、實に亦歐羅巴に於ける一大利益を意味するものである。吾々の熱泉を有する湯治場には、これに由て新たなる可能性を提供することになる。我が獨逸の三大浴療場たるアーヘン、バーデン、バーデン及びウィースバーデンは、何れも攝氏六十度乃至七十度の熱泉を有して居るが、通常吾々が這入る攝氏三十四乃至三十五度位の溫度にするのには、その自然の溫度を半分程に冷却しなければならぬ始末である。吾々の今日の浴治學的見解からすれば、鑛泉の特種的效力は、これを浴用の爲に變化することの少ないだけ顯著な筈である。療用泉の化學的組成のみならず、その溫度も亦特殊的效力の特徴を成すもので、既に今日までバーデン、バーデンに於て日本浴法を以て試みられた經驗が、これを立證して居る。

白粉中の鉛

白粉の中に鉛を含むで居るものは、のびがよく、のりがよいので兎角需用が多い、殊に固練の白粉に

は多く鉛を含むで居る。併し鉛の中毒はそれだけ恐ろしい。斯様な白粉を常用する婦人のみならず、その乳を飲む子供に烈しい鉛中毒が起る、哺乳兒の腦膜炎様症狀は、これが原因になつてゐることが最も多いと謂はれる。天華粉などにも往々鉛を含むで居るものがあつて、亞米利加邊でも子供の「汗知らず」に出る中毒で問題になつたことがある。故に白粉や天華粉などを用ゐる時には、鉛を含むで居るかゐないか反應を檢査する必要がある。

(一)白粉をとき、それに稀醋酸を加へて濾したものに、十倍の沃度加里又は一％の「クローム」酸加里液を加へれば、鉛のある時には橙黃色の沈澱ができる。

(二)白粉を手に塗つて、薄い硫化「ナトリウム」をつければ、鉛のある時は黑くなる。

「アイスクリーム」中の細菌

冷たい物の中には細菌などは居りそうもないと思ふてゐる人がある。依てブラッチャーと云ふ人が「アイスクリーム」の中に於ける腸「チフス」菌の生存力を檢査した成績を示して注意を促すことゝする。

腸窒扶斯菌は「アイスクリーム」の中で二個年四個月たつても未だ生きて居る。「アイスクリーム」製造室の溫度は華氏八度乃至華氏零下八度の間で大抵平均四度である。そこで千九百二十二年正月十一日に製造した「アイスクリーム」を研究中右の溫度に保つて、その冰結する直前と出來たての「アイスクリーム」の檢査から始めて、その後種々の期間をおいて二年四個月の間檢査を續行したのである。その成績を見ると、冰結後最初の細菌數は一立方「センチメートル」中五十一「ミリオン」であつた(先づ豆粒位の塊の中に五十萬匹と思へばよい)。それが段々數を減じて二個年の終りには六千三百となつたが猶ほ活

きて居つたと云ふことである。

飲料卽席冷却法

麥酒や「サイダ」の様なものは、微溫ではうまくない、殊に暑中は冷たくなければ難有くない。生憎氷室の設備がない、そこで氷のぶつかきや、削つたのを入れる、それでは又水ぼくなつてまづい。こゝに於て氷のぶつかきを土瓶、薬罐或は水指の如き物の中に入れ、一回飲むだけの量の飲料をその中に注いで、直ちに「コップ」に注ぎ移して飲む様にすれば、充分冷たくなつて而かも水ぼくならない、瞬間氷片中を通すだけで一日氷室に入れて置いたよりも冷たくなる。



○小兒保健所

內務省保健衞生調査會に於て乳兒死亡率を低くする目的を以て審査中であつた小兒保健所案は特別委員會に於て決議された、それは左の如くである。

小兒保健所案

一、小兒保健所は醫師一人と訪問保健婦とをもつて組織すること。

一、妊婦ある場合は産前一、二回の右保健婦を訪問せしめ、各種の注意を與へること。

一、出生後は乳兒の月齡に應じたる調節牛乳を安價で供給する事。

一、保健所では乳兒の定期的健康診斷をなすとともに萬一病氣のときは簡易なる醫療をも行ふ事。

○市民擔稅額

大正十五年度豫算によれば六大都市の負擔額は左の如くで

東京市	六七五四三〇八四圓
大阪市	六一〇六〇〇〇一
京都市	一四一二六六〇七
名古屋市	一七七四五五九〇
神戸市	一六六一五三一四九
横濱市	七七三五四七七

一戸當りの負擔額は

東京市	一五七・〇四圓
大阪市	一三六・一
京都市	九五・二
名古屋市	一〇八・一
神戸市	一〇九・一
横濱市	八一

となり市民一人當りは

東京市卅三圓九十錢、大阪市廿八圓九十錢神戸市廿五圓六十錢名古屋市廿二圓九十錢、京都市廿四圓八十錢、横濱市十九圓

東京市民一人三十三圓九十錢は日本第一である。

○水道局の第三期計畫

東京市水道局は現在四億四千萬立方尺の村山貯水池を有し更に六億四千萬立方尺の山口貯水池を來る二十年度迄に竣工するの計畫を有してゐるが復興帝都の衞生、防火等の設備を完備するにはなほ少からざる不安があるので目下第三期計畫として江戸川の上水を南葛飾郡金町字八幡に新設の貯水池に引き入れ更にそれを本所區小梅町に導かんとする計畫の調査を進めてゐる因みに右計畫は一千萬圓程度で完成出來るといふ。

○新潟縣の水害

羽越地方は先月二十八二十九兩日にわたり豪雨のため各河川出水甚だしく流失倒潰家屋七百戸浸水家屋八千戸、橋の流失堤防道路決潰多數浸水耕地一萬町歩被害三百萬圓に達し荒廢地たるを免れず死傷者三百名小學兒童は通學不能のため全部休校の有樣である。

右の慘害に就き畏きあたりでは、罹災民救恤の思召を以て去る三十一日御內帑金三千五百圓下賜の御

沙汰があつた。

○上海の暑熱

二十九日上海の最高溫度は屋外で華氏百八度屋內九十八度以上に達した實に四十年來の最高記錄である街路のアスファルトはわき返り自動車の如きもこれに車輪を食らはれて立往生するものあり支那人下級勞働者の日射病で倒れるもの續出の狀態であると上海特電。

○コレラ警戒

上海の「コレラ」は暑熱とともに益々猖獗をきはめるので內務省ではいよいよ同地竝びに吳淞を「コレラ」流行地と指定し八月二日以降同地方發汽船の乘客竝びに船員の糞便檢査を行ひ極力病菌の侵入防止につとむるやう三十一日特に電報をもつて橫濱稅關港務部に命令して來たので港務部では內外各汽船會社に對し各汽船の糞便無消毒のまゝ港內放流及び一切の汚水の港內排除を禁止しなほ近く解船人夫その他港灣關係者に豫防注射を行ひ必死の防止策を講ずる方針であると。

○狂犬豫防週間

警視廳の狂犬豫防週間は本月一日を以て開始されたが、第一日に注射を行つた警察が十署、捕獲隊七班出動、一頭二十五錢で買上げた四百頭の宿無し犬は夕刻十臺のトラックで追放處分に處したが、注射を施したのは一千頭である。

× × ×

暑中會員諸姉の御健康を祈る

大正十五年八月

私立大日本婦人衞生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや知識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんこと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も／＼衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋で起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を缺かざるもの〻如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し倂之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす玆に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月　首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治三十二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の知識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す。入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金貳拾五圓以上特別會員は一ヶ月金五拾錢以上、通常會員は一ヶ月金參拾錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役會の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、理事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長理事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は理事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し理事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る理事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長理事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會會場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第二十一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第二十二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第二十三條　會計の收支は總て會計擔任の理事の檢印を要するものとす●第二十四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●二十五條　地方に於て本會會員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第二十六條　本會會員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第二十七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第二十八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第二十九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件●第三十條　本會は隔月一回雜誌を發刊し之を會員に配付すべし●第三十一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會會長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿册に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第三十二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第三十三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所所在の郵便局（本郷區駒込千駄木町郵便取扱所宛）振出しおくべし●第三十四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地　私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮大妃周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 子爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

理事 鳩山春子
同 岡田德子
同 山口貞子
同 三浦教子
評議員 入澤常子
同 服部繁子
同 子爵母堂 仁禮壽賀子
同 緒方悅子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波貞子
同 中濱芳子
同 子爵母堂 松井正子
同 近藤憲子
同 男爵母堂 青山孝子
同 宮本樂子
同 守屋千代子

同 長谷川仲子
同 高木鐐子
同 天野多喜子
同 羽田三緒子
同 原光子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵母堂 加藤鈴子
同 吉岡彌生子
同 高橋孝子
同 松平芳子
同 男爵夫人 古市幸子
同 相磯まさ子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 瀨川さわ子

大正十五年八月九日印刷
大正十五年八月十二日發行

東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地
編輯者兼發行者 莊司秋次郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者 柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所 合資會社 杏林舍

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地
發行所 私立大日本婦人衛生會事務所
（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同 市銀座三丁目 東海堂
同 市京橋區鎗屋町 眞明堂
同 市本郷區龍岡町 南江堂支店
同 市芝區愛宕町 明文館
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京京橋元數寄屋町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店